

②12月「あつまれふゆのことば」

カルタの文を作る単元である。冬に関係のある言葉をたくさん集めた後、5・7・5の17音でできた文をいくつも紹介して暗唱させ、リズムを体感させた。

サンタさん雪をちょうだいクリスマス かがみもちとてもおいしいぷっくぷく ゆきつばききれいにさいた白に赤

リズムを覚えたことで、どの子も17音のリズムでカルタの文を作ることができた。

(3) 推敲と交流（見直しと評価の仕方）

①11月「しらせたいな見せたいな」

お互いの学校で、送られてきた作文を読み、1人の作文に4～5人が感想を書いた。その感想プリントには、「ようすがよくわかるようにくわしくかいていますね」「すきなわけがかいてあってよくわかりました」「字がじょうずですね」などと作文の良さがたくさん書かれていて、子どもたちはとても喜んで読んでいた。

②1月「おみせやさんごっこをしよう」

宣伝のちらしの文章を書く単元である。実際にお店やさんごっこをする前に、宣伝のちらしを見せながら、各店ごとに宣伝活動をさせた。このことで「おすす目が分かりやすい」「品物の良さが書いてある」「おまけもついているのが良かった」などと、他の店の宣伝ちらしの良さに気付くことができた。

その後、自分の店にたくさんのお客さんに来て欲しいという思いから、宣伝ちらしを書き加える姿がたくさん見られた。

3 日々の実践から

(1) 日記の指導

2学期から、毎日連絡帳に日記を書いている。5文で書く、会話文を入れる、とんとんずもうの作り方が分かるように書くなど、その日のテーマや条件を提示し、5分以内で書かせている。その後、3分間自分で読み直し、誤字や脱字がないかを見直させ、誤字1字をマイナス1点で評価している。子どもたちは、百点を目指して、丁寧に書

いたり、じっくり読み直したりするようになった。保護者が、毎日の日記を楽しみにしてくれて、読んだ感想を子どもに伝えてくれるので、子どもたちも、毎日書いておうちの人に見せるのを楽しみにしている。

(2) ミニ文集の発行

子どもたち全員の作文を、その都度印刷して配布している。国語の「書く」単元だけでなく、生活科のカードや行事作文も、ミニ文集にしている。

友達の文章の良さに触れることが、次に自分が文章を書く時の手がかりになり、その良さを真似する姿がたくさん見られた。

(3) 例文指導

語彙を増やすために、国語の授業の最初に、例えば「のぞく」を使った短文を5分間で思いつくだけ書かせるといった例文作りをしている。取り上げる言葉は、物語文などで、子どもたちが最初は意味がよく分からないと取り出したものできるだけ選択し、その言葉の意味理解につながるようにしている。

例文が思いつかない子どもには、書き出しの例を示して続きを書かせている。また、その日のベスト1の例文を紹介して、思いつかなかった子にはその例文を視写させている。何回も続けるうちに、子どもたちは「今日の例文の言葉は何かな」と、例文作りを楽しみにするようになった。

4 おわりに

入学時、ひらがなをやっと書いていた子どもたちが、自分の考えや思いを伝える手段として、文章を書くことができるようになり、「何を書けばいいの？」などと聞くこともなく、すらすらと文章を書いている姿は、頼もしく感じるくらいである。書いている内容に個人差は大きいですが、どの子も書くことを嫌がることはなく、いつも自分の書いた文章にどんな感想が寄せられるかを楽しみにしている。これからも、友達の文章の良さにたくさん触れさせ、読んでくれる相手を意識させながら、楽しく文章を書かせる手だてを工夫していきたい。